

琉球新報

1999年(平成11年)

4月6日 火曜日

THE RYUKYU SHIMPO

発行所 琉球新報社
那覇市泉崎1丁目10番3号
郵便番号 900-8525
私書箱・那覇中央郵便局
900-8656
©琉球新報社1999年

第32372号

◆子供の将来にも役立つ活動

「私の子供らが沖繩の心を持つようになるのはまだまだ先。若いころは私も父親が聞かせる沖繩の話より、ベースボールの方に興味があった。しかし、彼らも年を重ねると私の心が理解できるだろう。活動は子供の将来に必ず利益になる」。昨年十二月、支部設立と同時に会長に就任。未来の世界のウチナンチュの財産づくりに情熱を燃や

す。WUBとのかかわりは一九九五年に開催された「世界のウチナンチュ大会」に感激したのがきっかけ。さらに九七年のハワイ、九八年のブラジルで開催されたWUB世界大会にも参加。世界で活躍するウチナンチュたちを見て、沖繩への思



WUB北米会長のノーラン比嘉さん

いが一気に目覚めた。

父親は県系二世の故比嘉太郎氏。太郎氏は第二次世界大戦当時、日系二世で組織された米国陸軍百大隊に所属。ヨーロッパ戦線で負傷した太郎氏は戦線を離れハワイにいたが、米軍沖繩上陸のうわさを聞き、通訳兵として軍隊へ再入隊。特命を受け、糸満の摩文仁の丘で防空こうに避難した住民に、こうから出てくるよう方言で呼び掛けた。

太郎氏はまた、ハワイ移民六十五周年のドキュメンタリー映画製作や移民の歴史を本にまとめたりと幅広く活動し、沖繩にかかわりが深い人物。「父がした仕事には今になって感謝することができると話す。

月に一回、支部の定例会に出るため自宅のあるカリフォルニア州サンタマリアからロサンゼルスまで三百二十キロを車で走る苦労もあるが、活動は全くのボランティア。世界のウチナンチュのネットワークづくりに励んでいる。

ハワイ・オアフ島生まれ。家族は妻キンバリーさんと息子二人、娘一人。職業は麻酔専門医。四十九歳。

